

LAN アクキュライザーの活用(9)  
—CD と配信音源再生(3)—

1. 始めに

前報(8)に引き続き CD と配信音源再生の直接比較を実施していきます。

2. LAN アクキュライザーLACU-1 の試聴計画

今回試聴するのはバッハのヴァイオリン協奏曲です。

CD

ドイツグラモフォン 00289 483 5219

ヒラリー・ハーン (ヴァイオリン)

ジェフリー・カーン指揮ロスアンゼルス室内管弦楽団

STAGE+

ヒラリー・ハーン (ヴァイオリン)

ジェフリー・カーン指揮ロスアンゼルス室内管弦楽団

3. LAN アクキュライザーLACU-1 の試聴結果

上記の比較は、[スピーカーアクキュライザーの導入\(24\)](#)で報告していますが、この時点からの変更は前報(1)で述べたとおりです。

CD の再生は EMT981 により行います。

CD の再生では、この CD は同じデジタルマスターの録音のアナログ盤を購入したときに付録として入手したもので、弦の艶や響きや通奏低音の量感など、あたかもアナログ盤を聴いているような印象です。これらは、EMT981 本来の特性に加えて、スピーカーアクキュライザーの位置変更やケーブルチューナーの追加の効果が出ているものと言えます。

STAGE+再生では、CD とよく似た音質で、ちょっと聴きでは判別しにくいくらいです。敢えて違いを指摘すれば、CD はウオームな響きがあり、STAGE+の配信は、音のメリハリがある印象です。

4. まとめ

CD と STAGE+双方に関係する変更の効果により、ともにグレードがあがり、STAGE+の配信音源の再生では、2ヶ所への LAN アクキュライザーの装着の効果で CD に近づいた印象です。

以上